

# 安岡正篤講話録 「論語」と人間

～今をいかに生きるべきか～

- 
- 税込価格／ 48,600 円（本体価格 45,000 円）
  - 構成／ CD9 枚
  - 付属品／ 副読本（280 ページ）
  - 収録時間／ 1 枚 55 ～ 70 分
- 



## 【解説】

「現代をもっともよく把握し、現代にもっとも正しい結論を得ようと思えば、『論語』で十分である」

確たる価値観を見失った混迷の現代にあつて、『論語』は古典の領域にとどまらず、その教えはむしろ輝きを増しているといえるでしょう。

混迷の現代をいかに生きるか——単なる字句の解釈にとどまらない安岡活学の講話をぜひお聴きください。

- <特長 1> 安岡正篤氏が自ら語った「安岡論語」の決定版 CD 集。
- <特長 2> 『論語』の名言を解釈しながら、現代人の危機を説く。
- <特長 3> 講話内容を完全収録した付属書籍で難解な言葉も理解できる。

## ◆内容の一部紹介◆

「義と利」(Disc2 より)

心ある人は、どうしてもこの「義に喩る」ということが大事であります。利ということばかりを考えておつては、遂に利になりません。利によって行なえば、まさに怨が多い。

そういいながら、そう知りながら、人間始終悩まされておるのは経済であります。そして、この経済ということになりますと、わかっておるはずの人でも不思議なほど利己的であり、排他的・競争的になりやすい。道徳などといっておつては、義などといっておつては経済にならぬ、利にならぬ。礼節などは衣食足つて後の話だ。飯が食えなくて何の教養も文化もあるか——いわず語らず決めこんでおるのが、常人の心理であります。

政策にしても、まず予算の分捕り合い。予算がないというと、大切な政策も軽く排除されがちであります。

それほど経済優先主義で、誰もが富裕なのかというと、いつになつても貧乏を嘆かぬことがありません。

それは経済というものも人生の重要部門であります。決して孤立的に行なわれるものではなくて、経済を左右するものは案外道徳である、義であるというような理法・原理・原則に対して非常に無知なためであります。……